

キャンプ研修の思い出

去る、八月六日〜七日の泊二日の日程で、鹿児島県大口市の奥十會園設キャンプ場において、津奈木町野外活動指導者養成キャンプ研修が閉幕されました。

この研修の趣旨は、団体活動を通して心身を鍛錬し、野外活動に必要な基礎知識や技術の習得をはかり、子供会育成と青年活動の振興に資することを目的としたものです。

参加者は、六日の午後一時に中央公民館前に集合し、多種多様な職業の青年男女で、総勢三十六名がそれぞれ乗用車に分乗し、約五十分の道のりで研修地に到着しました。

早速オリエンテーションがあり、班別割り当て、係割り、食料準備、夕べの集い準備、キャンプファイヤー準備と活動を展開しました。



夜のキャンプファイヤーで、一部感謝の集い。二部は、一部感謝の集い。

友情の集い。三部、希望への集いと内容を分け、一部の女神が登場し、真暗闇に一つの灯から映したされる純白の衣装はとも印象的で、野営長から一人々のタイムツに点火される時は自然と足もとが明るくなり、ファイヤーに全員で点火し、ファイヤーを囲み、歌（もえろよもえろ）を合唱しながらとても感動し、二部では、みんなと踊り、スイカ割りを楽しみ、班別競争でのゲームはおかしくて腹が痛くなる程みんな一生懸命張り張りピリのチームは罰ゲームをやらされた。消灯は午後十一時の予定でしたが、テントの中で各々遅くまで話しに夢中たつたようです。

二日目は六時半起床と共に朝の集いが開催され、朝食後の食器洗いは男子でやり、他団体の女性も白黒していた。その後、自然利用研究競技等の研修があり、有意義に過ぎ、同地において午後四時から研修終了式があり、教育委員会の浜本野営長から「この研修を契機にさらに学習し、共に助け合つて生活を送って下さい」と挨拶があり、午後五時全員無事、津奈木に到着し解散しました。

研修を終え一ヶ月過ぎた今、改めて、研修の重要性を感じています。主催者の町教育委員会のスタッフの皆様が準備の段階から資料作成まで大変なつたと思えます。

当日は肉体的にも疲れず、内容も豊富で良い勉強になり、来年もぜひ開催を願ひ、さらに多くの参加者がありますように希望しています。

福浦 福田 必

冷麦茶に目がパツチリ

八月十日〜十一日の両日お盆前都会からの帰省客やドラマイの運転事故防止のため津奈木町では毎年冷たい麦茶の接待が行われています。

今年も各職場より数名、婦人会も山口会長始め四〜五名との接待に参加しました。

午前中に用意された大量の麦茶を氷で冷やし千代の空地にテントを張りその上に大きな字で麦茶接待と書いてあるの

若者の祭典開かれる

大空に希望と情熱の虹をかける、ふれ合いの祭典をスロガンに県下青年達が技を競い合う。

第十九回県総合青年祭が、下益城郡松橋町を中心に、九月三、四日に渡り行なわれ、本町では、陸上、球技、文化生活の部門が参加、今年も陸上の部の活躍がめつた。



つな引でも優勝した津奈木青年団

をかけたドライブの方にサービスを始めました。お盆前とあつてさすがに自動車が多いのにびっくりしました。多い時はコップにつくの間にも合わない位次々と気持よく飲んで行かれます。

どの方だったか、

「津奈木町は大へん良い事をされていますね。冷たいおしほりで顔をふくと目が覚めます。有難う。」

文化の面では、彫刻の方で、優秀賞、努力賞を得、期待された、女子バレーボール一回戦土部にストレート勝ち準々決勝では山鹿市と対戦し一対一となり、三セット目は二点の差でおしくも敗れた。

女子バレー部が結成されて四年連続出場しており、年間を通して練習を行なっている。

と云い乍ら通り過ぎて行かれました。私達には大変嬉しい言葉です。

「何か自分は違反でも起したのか」とびつくりした様な顔で近すて来て

「私は麦茶等飲んでるひまはない。」

と少々不機嫌な口調でさつきと立ち去つて行かれる。その人を見ていた人は想う事は同じで、

「なる程さう云う運転手もたまにはあるのだ。」

サービス係も少々反省しなげれば、と思ひました。

でもさう云う方事故等起きないでほしいと感じました。

婦人会員はコップにつく係にまわり、待つて行く人は若い娘さん方をお願いしていたせいでしょか、運転者の方にはなかなか好評の様でした。

山口会長さんはさかさすいつもの冗談がとび出し

「貴女達は接待もなかなかうまいしドライブの人に気に入られて結婚申し込み者でもあれば相談のりますよ。」

と云われ近くに居合せた交通安全指導員の磯見さんや他の人達も一緒になつて大笑いでした。

冗談をかわし乍ら午後四時近くになり車の数は相変らず多く麦茶もおしほりも残り少なくなりましたがどうやら私達の仕事も済んだ様でした。

麦茶の用意をなされた各職場の方々婦人会員の方、あの暑い日本当に大変でした。

帰る時は暑さからか、車に乗した後は暑さよりも暑さを感じた一日でした。

町中婦人会一員 山下 美枝子

津奈木

発行所 津奈木公民館
津奈木町 津奈木公民館
電話 3111 (代表)
編集委員 津奈木公民館
印刷所 三和印刷所
電話 3972 (水保)

津奈木老友会

十年の歩みを顧みて



津奈木町の老人会は、昭和四十一年から四十二年にかけて、町当局や民生委員のご尽力によつて、結成されたことは、九月号町報に書きましたとおりで、四十四年五月初代の連合会長でありました千々岩先生が急逝されたため、その後任の交渉を受けたのが、五月三十日だったと思ひます。当時やつと六十五才の老人会員としての該当年齢に達したばかりの私で、夢想もなかつた交渉に面喰つて、極力辞退したのですが、斎藤町長を始め林田、椎葉、水里、西川渡氏等交渉委員の方々は一歩もひく気配もなく、数時間対座の果て根気負けした私は『では一年』という約束でお受けしたようでした。その一年が延び延びになつて、満八年、時の流れの早さに驚くのです。

要請もたし難く、若冠不徳の私が、会長を引受けるにまつた、考えましたことは、まだまだ走り使いも出来るよつた

から『老人会の若返り』という点では、お手伝が出来たものではなかつたか...というところでした。得て古色然に流れた勝老人界に少しでも若さや活気を吹きこむことが出来れば...という考えで...私も当時は、また「若かつた」と今、想ひ出して、おかしかなりです。

『産みの悩み』は、何れの社会でもあることで、創設当時の老人会では、その運営に当る単位会長さんが、すいぶん苦勞しておられたようでした。それで単位会長が出来ただけ運営し易いようにお手伝すべきであると思つて、各クラブの要請に従つて、各クラブを訪問することにしました。毎月行くクラブもあり、年に数回も全クラブを巡つて、会員の方々と語り合つてを精力的にまわつたようでした。

つまり単位クラブの活動促進に努めたつもりでした。

会長各位のご努力と会員の協力、それに地域の方々の理解と援助によりまして、クラブの活動も漸次軌道に乗つて来たようでした。

殊に赤崎地区の活動は目覚しく、立派な運営で『老人会』の視察に先ず赤崎へ」と県老連が、第一指をおくるように発展しました。今回内閣総理府の後援でRKKが担当し八月

十日から三日泊り泊りこみで赤崎老友会をフィルムに収める九月二十四日、七時から三十分間にわたつて、全国三十二ネットワークを通じて全国放送することになりました。

『あしたをつくる長寿万歳』このことは県では勿論全国でもあまり例のないことで、皆様も見ていただきたいと思ひます。

これは単に赤崎老友会の普はかりでなく、津奈木の大きな誇りではないかと存じます。

※県外旅行始まる

『老人会の若返り』を自分の使命と考えました私は、会員中にはまだまだ元気な方がいられたので糾合して、老人ソフトボールチームを編成しました。然し郡内外にも相手チームがいなく、やつと区長会や役場課長と数回試合をやりましたが、この計画は不発に終わりました。私が最も力を注いだ一つは、老人の県外宿泊旅行です。今こそそれじゃだんたんと若い人達の旅が盛んですが、今の老人達の若い頃はたゞ我無着羅に働きたつた時代で、旅行など殆んど縁のない時代を過ぎた人達です。お気毒な人達です。せめて今からでも旅行を楽しんでもらつて、若さと元気をとり戻してもらつたら...これも日帰りで駄目、宿泊

旅行でなければならぬ...ここまでは可なり考えもしてやつと決断、バスでの県外旅行は当時の状況からすると実に決断を要するものでした。これには町当局の理解と協力が大きな力になつたものでした。旅館はなるべく大きい一等旅館をえらびました。その第一回は昭和四十五年五月会員五十七名で雲仙への旅でした。ついで翌年は会員八十七名で別府へ、三年目は百三十名で平戸佐世保方面へ旅は始めての方が大部分で、赤ヶつの披露も賑やかでした。水洗便所のつかい方がわからなくて困つた人、男子用の小便所を、なんと高い便所かどがなはられたおはあさんの苦心談、自分の部屋がわがわがたおちいさん、部屋がわからなくてどうとう廊下に坐りこんだおちいさん、すいぶん笑えぬナンセンスも多かつたが、今ではすつかり旅馴れされて、難物たつたエレベーターの操作も自由に出て来るようになりまして、そして四十八年が日南宮崎、四十九年は九州を離れて下関や秋芳洞五十年には指宿鹿児島、五十年は天草海岸を一週し本年第八回は長崎方面を一巡、この間の参加者八百名一応九州をまわりし訳で来年の構想をそれぞれ胸に描いてい

※郡市老人スポーツ大会五年連続優勝

厚生省が全国老人の健康の増進と生きがい対策として実施に踏みきつた郡市老人スポーツ大会の第一回は昭和四十七年十月北町の湯浦運動公園で開催、待望と期待の行事として参加した津奈木の老人連は二千数百名、県下最大の老人スポーツ大会として盛況を極めた。競技は水保北田浦津奈木のチームによつて覇を争われたが、地域的にも人口的にも一番弱小手予想されていた津奈木チームが断然他の強敵を引き離して優勝、第二回の水保会場第三回の田浦会場でも引續いて津奈木チームが連勝、この頃になると他市町間に打倒津奈木の意気物すべく、水保田浦等の進境著しきものがあつたが、第四回の津奈木会場も第五回の北田浦会場も津奈木チームの制覇に終り五年連続優勝の偉業をなしとけました。

大明神前の憩の家には五つ(次頁へつづく)

心細さ、千円札が二三枚ア
心細さ、産婆さんの見つからん
むつとして、打割るごつ戸しむる 一平
むつとして、決まった話ませくらす
心細さ、今更人も頼られん 笹岳
むつとして、こらえきれんできやア云うた
むつとして、なん臭かつ炊きおるか
心細さ、そるで舞台立つ気かな 拙者
心細さ、日暮れにや狸の出る峠 双岳

腹の立つ。 ばあちゃん。
一題二句。十月末迄、公民館へ。
青々と空澄みて残暑かな
二百十日日も尋常の夕べかな 蕪村
日野 草城



優勝額が掲げられ、戦跡を物語るかのようです。客観条件が一番悪い津奈木チームが、よくこの成果をなし得るものは何か？回毎に反省して見るのですが、個々の老人が他町村のそれに比べて、特に技能が秀でているという訳でもないやうで、結核会員の和合団結の力とゆうより外ないやうです。練習会にも何の不平もなく監督指揮者の命に従い連帯意識のもと自分の責任を果されるお一人お一人の力が集まり、この成果であつて、これこそ津奈木の伝統であり美風であると思ひます。この伝統と美風をいつまでも持ちつづけ若い人々に継承してもらいスポーツ面は勿論のこと、町づくりの基盤にしてもいいものではないかと願ひます。

津奈木老友会 十年の歩みを顧みて



津奈木老友会 十年の歩みを顧みて

二月十二日には津奈木中学校グラウンドにて第一回町内ゲートボール大会を行いました。老若男女の別なく集る者三十二チーム、六コート狭しと繰り広げられた熱戦にその普及発展の早さに驚きました。このことは正に津奈木町ゲートボール界の将来の発展のスタートとなるのではないかと思ひます。超えて本年三月三日待望と期待の老人部の場が完成しまして、そのコート開きが行はれました。

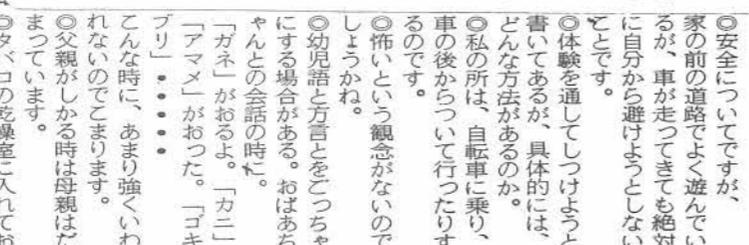
厚意に対し一同感謝している次第であります。お蔭で四月十五日阿蘇宮祭典には奉納ゲートボール大会をやりました。あいくの天候でしたが、これは将来とも続けたらと思つています。私の持論であります。一部落一コーも漸次実現しつゝある現状で、そこそこステックの快い音とお年寄達の笑い声がきこえてくるようになりました。ゲートボールは老人だけの専有物ではありません。中高年の婦人方には最も適した運動です。又子供達は上達が早く喜んでやっています。一部落一コートが完全に実現し全部落の老人婦人達がゲートボールによつて若さと健康をとり戻し、連帯意識の昂揚によつて、よりよい町づくりが出来ますよう願つて止みません。

クケの苗を古中尾老友会で又自力で育苗され町当局を又老友会を通じて町内は勿論県内には奉納ゲートボール大会をやりました。あいくの天候でしたが、これは将来とも続けたらと思つています。私の持論であります。一部落一コーも漸次実現しつゝある現状で、そこそこステックの快い音とお年寄達の笑い声がきこえてくるようになりました。ゲートボールは老人だけの専有物ではありません。中高年の婦人方には最も適した運動です。又子供達は上達が早く喜んでやっています。一部落一コートが完全に実現し全部落の老人婦人達がゲートボールによつて若さと健康をとり戻し、連帯意識の昂揚によつて、よりよい町づくりが出来ますよう願つて止みません。

肥後っ子しつけ十章 乳幼児期

先月号では保育園から大学生まで全般的に話し合つてもらいましたが、今月は第二回目として、津奈木保育園のお母さん方においていただいて、乳幼児期の問題を中心に、毎日の生活の中でいろいろな経験されたことと悩んでおられることなどを出し合つていただけと思ひます。

西平 春代 (一人) 津奈木保育園長 伊藤一吉 司会津奈木小学校長染浦俊男 伊藤・松本・社教主事



肥後っ子しつけ十章 乳幼児期

安全についてですが、家の前の道路でよく遊んでいるが、車が走つてきても絶対に自分から避けようとしていないとです。

PTA奉仕作業 行なわれる 津奈木小学校PTAでは去る八月二十八日(日曜日)、会員二四八名によつて、PTA奉仕作業が午前八時三十分から正午まで行なわれた。

伝説 とらおかめ ある日の夕方、喜作やんが畑からかへつて来ると、家の前に一人の女が立つて、喜作やんのかえりを待つて居る様子。

長寿村崎 青年団の盆踊り大会と 日本一(赤) 共に全国に報道

赤崎青年団がふるさとづくりの一環として、八月十四日の夜、赤崎小学校校庭において、赤崎盆踊り大会を実施した。



赤崎青年団がふるさとづくりの一環として、八月十四日の夜、赤崎小学校校庭において、赤崎盆踊り大会を実施した。

盆踊り大会当日は、RKKの取材班が「長寿村日本一」取材に訪問しており、お年寄りの、とび入りの自慢など録音し、九月二十四日、民間放送ネットで午前七時から三〇分間、全国に向け報道されました。

楽しいお盆を過ごしていたようでした。盆踊り大会当日は、RKKの取材班が「長寿村日本一」取材に訪問しており、お年寄りの、とび入りの自慢など録音し、九月二十四日、民間放送ネットで午前七時から三〇分間、全国に向け報道されました。

安全についてですが、家の前の道路でよく遊んでいるが、車が走つてきても絶対に自分から避けようとしていないとです。

津奈木民話(二) 堀二雄 喜作やんは、この色の浅黒いいかにも丈夫な女を、しげしげと見つめながら、心の中で、こらアよ百姓女は、嫁になつてから大飯喰われたら大損である。

津奈木民話(二) 堀二雄 喜作やんは、この色の浅黒いいかにも丈夫な女を、しげしげと見つめながら、心の中で、こらアよ百姓女は、嫁になつてから大飯喰われたら大損である。